

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈9月13日（金）放送分〉

テーマ「奄美先人の知恵」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今週は、毎月第2週に、奄美の文化・暮らしにおける先人の工夫などを紹介する「奄美先人の知恵」の6回目です。

今回は、徳之島伊仙町のカムィヤキ^{とうきかまあと}陶器窯跡について紹介しましょう。

カムィヤキ陶器窯跡は、11世紀後半の平安時代の終わりから14世紀前半の鎌倉時代にかけて、陶器が作られた窯の跡です。1983年、ため池の整備事業の最中に発見されました。東西約1.5キロメートル、南北約800メートルの範囲に、窯の跡が七つに分かれて分布し、全体で100基ほど存在すると推定されています。発見者である伊仙町職員の^{よつものぶひろ}四本延宏氏は、発見の時の様子を『郷土の先人に学ぶ 第5集』において、次のように述べています。

「『やったあ！』わたしは叫びました。興奮のあまりひざがガクガク震えています。

目の前には大量の焼き物の破片、真っ黒の炭、窯の一部と思われる赤く焼けた粘土。触ると固い。『間違いなし。窯跡だ。』（中略）こうして徳之島、いや琉球列島の歴史を大きく揺さぶる日が始まりました。」

四本氏は、なぜ、「琉球列島の歴史を大きく揺さぶる日」の始まりであると考えたのでしょうか。

それは、鹿児島県の一部、トカラ列島、奄美諸島、沖縄諸島、^{さきしま}先島諸島などの南北1200キロメートル以上にも及ぶ、平安時代の末期あたりの遺跡から、それまでの時代と全く違った焼き物が出土され、注目されていたにもかかわらず、生産地が不明だったからでした。そして、出土する場所は、集落があったとされる場所、城（グスク）といわれるところ、畑の中など様々でした。出土の仕方も、^{はくじ}わずか一点の壺であったり、^{せいじ}多量の破片であったりしました。また、鉄器、中国産の白磁や青磁、長崎産の石ナベやガラス製品などと広い地域の製品と一緒に出土することも多く、国際的な雰囲気のある焼き物でした。奄美諸島の中世の歴史を解明するために、この焼き物の生産地はどうしても解明されなければならない問題だったのです。

そんな中、この焼き物の生産地が徳之島を含む近くの島であると主張する人がいました。当時、郵便局の職員であり、元伊仙町歴史民俗資料館の館長である^{きのりかず}義憲和氏です。彼は、伊仙町伊仙のミンツィキという遺跡からの出土品に失敗したものが多いことに着目して、商品価値のほとんどない製品が遠くから入ってくることはない、近くに生産地があるはずだと考えていたのです。

また、四本氏は、「カムィヤキ」という名前の由来が気になっていました。伊仙の^{あさん}阿三集落には、いくつかのため池が並んでおり、そのため池の一つが「カムィヤキ池」という名前でした。その池の名前は、戦後間もないころまで一人の陶工がその池の近くで焼き物をしていたことが由来であると、集落の古老たちは話していました。徳之島では、壺やかめのことを方言で「カムィ」と言います。つまり、「カムィヤキ池」は、「壺やかめを焼いた池」という意味になるのです。そこで、四本氏はカムィヤキ池周辺の調査を行います。すると、整備のために水が全部抜かれ、周囲の草も取り払われた池で、焼き物の破片が落ちているのを見つめます。慌てて池の斜面を下っていくと、黒い灰になっている部分に、おびただしい数の焼き物の破片が散乱しています。もしかしたら、焼き物を焼いた窯の跡があるかもしれないと、緊張しながら周りを探し続けます。そして、ついにため池の底の方に半径2メートルほどの赤黒い土が壁状になっているところ、長い間「生産地不明」であった焼き物の窯跡を見つけたのです。

カムィヤキ窯跡の近くには、粘土・水・燃料が豊富にあったことが、現在の状況からも想定できます。カムィヤキ陶器は専門の職人により大量に生産され、徳之島から南北1200キロメートルにも及ぶ広い地域に売られたと考えることができます。当時は、まだ琉球王国の成立していない状態であり、国家のまとまりのない時代に、徳之島を中心として壮大な交易体制が確立されていたことは驚くべきことです。さらに、カムィヤキ陶器を生産する労働力、労働者を支える食料や製品を流通させるための陸と海の運送を統率する集団、安全を確保する武力などを考え合わせると、とてつもなく大きなビジョンをもった集団があったはずです。このことは、奄美大島の先祖が中世のある時期に東シナ海を中心にしてすばらしい交易の時代を築き上げたことを証明することにもなるのです。

四本氏は、現在、伊仙町歴史民俗資料館の館長をされています。「考古学とは、遺跡を調査することにより、当時の人間の生活を明らかにする仕事である」と『郷土の先人に学ぶ 第5集』に記し、その最後には、「私が、『カムィヤキ窯跡』を発見できたのは、たまたまその地名に興味をもちその現地を調査に行ったおかげです。奄美諸島の中世時代はそれまでわからないことが多すぎてまっくらやみの状態でしたが、この発見によりもっとも光り輝いていた時代であったことがわかったのです。みなさんのまわりにも古い言い伝えや古い地名が多数残されています。ひょっとしたらそこにとてつもないなぞがかくされているのかもしれませんが。そしてそのなぞをみなさんが発見してくれるのを今か今かと待っているのかもしれませんが。」と書いています。

カムィヤキ陶器窯跡は、平成19年に国指定史跡として登録されました。奄美大島には、貴重な遺跡が数多く残されています。これらの遺跡から先人の生活を知り、先人の知恵を学ぶことによって、私たちの未来を考えてみることもできるのではないのでしょうか。そのときに、奄美図書館の図書も参考にしていただけると幸いです。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。